

Kumagaya倶楽部

行政書士は街の身近な法律家

◆支部長挨拶

支部長 萩原 隆士



熊谷支部の先生方、こんにちは。私が支部長に就任して早1年半を過ぎようとしています。まだまだ先生方にはご不便をお掛けしていますが、先生方の温かい心でご容赦ください。

さて、この1年半を振り返ってみますと、まず、行政書士の長年の悲願でありました特定行政書士制度が誕生いたしました。他の士業の方々と肩を並べた感じがしますが、内容と実績はこれからの課題だと思っております。

次に、熊谷支部の活動についてお話ししたいと思います。振り返りますと、月1回行っております市役所の無料相談会には、毎回10名近くの相談者(9割以上が遺言・相続の相談者)に来ていただいておりますが、旧妻沼地区、旧大里地区、旧江南地区からの相談者が多く来られます。私としては、熊谷市役所では1年間通して相談会を開催し、旧3地区ではそれぞれの行政センターで3カ月に1回無料相談会を開催できれば、街の身近な法律家の名に相応しい行政書士になるのではないかと考えております。それには、関係者のご協力、ご理解を得て、我々熊谷支部の先生方にもお力をお借りしないと成就しないと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

それから、県で実施する広報月間に熊谷支部として八木橋百貨店様の御協力のもと、無料相談会を行っております。毎年20名近い相談者に来ていただいております。やはり、相談内容は遺言・相続がほとんどとなっています。このように、遺言・相続でお困りの方が多数いますので、上記のように先生方の協力のもと、実現したいと思います。

結びに、伝統ある熊谷支部の維持発展のために会員の皆様のお力をお貸しください。よろしくお願いいたします。

◆主な行事 (平成28年1月～)



新年賀詞交歓会

平成28年1月9日(土)

マロウドイン熊谷において、新年賀詞交歓会と神山忠之顧問の総務大臣表彰受賞記念祝賀会と河原庸雄顧問の喜寿祝賀会が盛大に行われました。申年は激動の年と言われますが、今年一年の平穏と伝統ある熊谷支部のますますの発展を全員で祈念いたしました。

平成28年度支部定時総会

平成28年5月7日(土)

マロウドイン熊谷にて定時総会を開催しました。35名(委任状36名)の会員が出席しました。栗原雄次郎会員が議長に選出され、活発な議論が行われました。平成27年度の活動報告、そして、平成28年度の事業計画・予算の承認を得ることができました。



新年度役員会とごみゼロ運動

平成28年6月4日(土)

新年度初めての役員会が開催され、総務部、経理部、業務部、厚生部、広報部から新年度の事業計画の発表がありました。役員会の後は、毎年恒例のごみゼロ運動を実施しました。中央公園に集合し、空き缶、ペットボトル、タバコの吸い殻などのごみを集めました。



支部研修旅行

平成28年9月4日(日)、9月5日(月)

今年の研修旅行は群馬県渋川市の伊香保温泉へ行きました。宿泊の前に、「伊香保切り絵美術館」にて、希望者による切り絵体験が行われました。カッターで絵を切り抜く作業は、いつもの仕事より大変だったかもしれません。宿泊は「一番湯の宿 ホテル木暮」でした。26の湯処があり、ホテル内で温泉巡りを楽しむことができるほてるでした。懇親会では、景品争奪じゃんけん大会が行われ、大いに盛り上がりました。

翌日は、希望者のみですが、榛名神社への参拝をして、その後昼食をとり、解散となりました。



行政書士無料相談会

平成28年10月8日(土)

行政書士制度の広報月間として、県下一斉の無料相談を恒例の八木橋百貨店東口玄関をお借りして実施されました。相談件数は19件でした。開催前に市役所、各行政センターにチラシを配り、チラシを見て相談会に来ていただいた方もいました。

相談件数こそ、昨年を下回りましたが、一件の相談時間は長く、相談内容の把握のためにヒアリングに時間がかかりました。遺言・相続の相談内容が複雑になっていると感じました。



業務研修会

平成28年11月12日(土)

業務研修会のテーマは、「離婚公正証書の活用方法」ということで講師には昨年同様熊谷公証役場から田中進公証人をお招きしました。

「離婚公正証書は遺言公正証書に次いで作成件数が多い」というお話を耳にし、離婚問題にも相談に応じられるよう、研鑽を積ませて頂かなくては、と感じました。

軽妙な語り口でユーモアを交えてお話しいただき、2時間の講義が非常に短く感じられ、和やかな雰囲気の中でも有意義な研修となりました。



◆新入会員紹介 (平成28年1月以降)

柴崎 大地 先生

- ①事務所所在地 熊谷市肥塚2丁目5番22号
- ②電話番号 048-523-7636
- ③兼業資格の有無 無し

熊谷支部の先生の皆様はじめまして、柴崎大地と申します。生まれは熊谷市、育ちも熊谷市、根っからの熊谷っ子です。中学時代はろくに勉強もせず、高校時代はダンスに明け暮れる日々、大学時代は法律とは全く無縁の国際関係を学んでおり、そんな自分がまさか行政書士を目指すとは夢にも思っていませんでした。趣味は短歌と俳句です。数年前に始めたばかりですが、短歌は「サラダ記念日」で有名な俵万智先生に何度か選んでいただき、読売新聞に掲載され、俳句では今年7月にお〜いお茶俳句大賞で佳作特別賞をいただくことができました。

行政書士という職業では、書類を作成することが主な業務であると思います。書類を作る上で私は言葉のひとつひとつを大事にし、丁寧な仕事を心掛けたいと思っています。

今年4月に開業したばかりで、何もかも未熟な私であります。支部の先生方のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

◆退会（平成28年1月以降）

平成28年5月	櫻井 茂 先生	退会
平成28年5月	大谷 直人 先生	上尾支部へ
平成28年6月	馬場 喜一 先生	退会

◆トピックス

行政書士ADRセンター埼玉について聞きました

ADR(裁判外紛争解決手続)について、聞いたことはあるけど詳しくは知らないという会員の方も多いのでは？と思います。昨年度まで行政書士ADRセンター埼玉のセンター長を務めていらっしゃった神山忠之顧問に、ADRセンター埼玉のことについてお伺いしました。

Q1. ADRセンター埼玉で取り扱っている主な分野は何ですか？

A1. 離婚に関する紛争、相続に関する紛争、建物賃貸契約解除時等の紛争、交通事故に関する紛争の4分野です。

Q2. どのような相談が多いですか？

A2. 交通事故が26名、次に相続が8名、取扱分野以外が54名でした。
特に自転車による交通事故紛争は、加害者側からも含め、多くなっています。

Q3. ADRセンターではどのような流れで調停が進むのですか？

A3. 申込者から運営委員への電話があり、その内容により事前相談日を決定します。
当日、事前相談担当者から、調停申込書、関係書類の提出を求めます。
受け取った書類は、手続き関与弁護士により、検証をします。
申込者へ受理の適否と相手方へ申し込みがあった旨を通知します。
相手方への事前説明をして、その後、相手方から調停依頼書の提出がされます。
調停人を選任し、調停開始となります。

Q4. 話し合いがまとまった場合、又はまとまらなかった場合、その後どうなりますか？

A4. まとまった場合、合意書を作成し、当事者へ交付します。
まとまらなかった場合は、終了通知を発送します。また、他の調停機関をお知らせすることもあります。

Q5. 調停人に求められる資質は何でしょうか？

A5. 法的能力、紛争解決能力に、それぞれの取扱紛争分野の能力が必要となります。

Q6. 調停人になるには、どのような研修をするのですか？

A6. 行政書士調停人候補養成研修を受講し、効果測定をします。
本年度は第3期として、7月14日から8月30日までの10日間、開催しました。
次に調停技法を受講、効果測定の結果、行政書士業務歴5年以上の者が会長より任命され、調停人候補者名簿に登載され、調停人となります。

Q7. ADRセンター埼玉の今後の方向性についてお聞かせください？

A7. 会員向け研修を続け、皆様から理解され応援を受けられるセンターとなることを目指しています。



◆報告…市役所無料相談コーナー相談件数

平成28年1月から12月までの熊谷市役所無料相談コーナーの相談件数をご報告いたします。

	相 続	遺 言	その他	備 考
平成28年1月	4	0	0	
平成28年2月	7	1	0	
平成28年3月	5	0	0	
平成28年4月	1	1	0	
平成28年5月	7	0	1	
平成28年6月	6	2	2	
平成28年7月	5	0	0	
平成28年8月	2	3	0	
平成28年9月	7	2	0	
平成28年10月	5	0	1	
平成28年11月	8	4	1	
平成28年12月	7	0	1	
合計	64	13	6	

- 相談件数の合計は、昨年の97件を下回り83件となりました。
- 相談内容については、相続・遺言に関してが全体の約9割となっています。

編集後記

広報という仕事を任されるようになると、他支部の広報活動や他土業の広報活動などにも関心を持つようになりました。内部向けの広報だけではなく、外部向けの広報活動として、産業祭などの地域のイベントに参加する支部もあるようです。また、他土業のポスターや相談会のチラシなども、市役所や様々な公官庁で目にとめることが増えました。専門家も「先生」という肩書だけで依頼が来るわけではありません。多くの市民の皆様に、行政書士が何をしている専門家なのか知ってもらおう努力をしないと強く感じています。



広報部 飯島広樹